

会 議 要 録

名 称	第6回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日 時	平成24年8月2日(木) 午後2時から午後4まで
場 所	豊橋市役所 東館8階 東80会議室
出席委員	笠倉忠夫委員長、荒木仁子副委員長、後藤尚弘委員、植村幸司委員、野亦真理子委員、長崎正敏委員、河合節子委員、長田真理子委員
欠席委員	安井広幸委員、布藤美紀委員
環 境 部 職 員	環境部長 大須賀俊裕、環境政策課長 大竹英文、廃棄物対策課長 中山昌訓、業務課長 榎本貴一、資源化センター所長兼施設課長 小林伸行、埋立処理課長 村田泰祥 環境政策課 課長補佐 種井直樹、減量推進グループ主査 松本充裕、政策グループ主査 芳賀信明、担当 後藤一紀
内 容	1. 委員長あいさつ 2. 報 告 (中間報告、環境経済委員会、行財政改革プラン公開ヒアリング、広報とよはし8月1日号) 3. 議 題 (1) ごみ減量への経済的手法の検討 家庭ごみの有料化 (2) 事業系廃棄物の減量・資源化の促進 4. その他

第6回豊橋市ごみ減量推進検討委員会 会議録

日 時：平成24年8月2日（木） 14：00～16：00

場 所：市役所東館8階 東80会議室

司会：大竹課長

- 委員長あいさつ（笠倉委員長）

- 報 告（種井補佐）
 - ・ 中間報告

 - ・ 環境経済委員会

 - ・ 行財政改革プラン公開ヒアリング

 - ・ 広報とよはし8月1日号

委 員 長：以上の報告について、委員のみなさんから質問はありますか。

野亦委員：環境経済委員会の資料に、「レジ袋の有効利用について」のグラフと「ごみに含まれるレジ袋の枚数」があるが、レジ袋を中袋として利用してごみ出ししている場合、これらの袋は、「ごみとして排出」に含まれているのか。

環境政策課長：中袋として出されたレジ袋も、「ごみとして排出」の一部に含まれ

ています。

野亦委員：「すべてのレジ袋を有効利用している」、「ほとんどのレジ袋を有効利用している」と答えた人が90%を超えているにもかかわらず、「ごみとして排出」が多いのは、バランスが悪いと思います。

環境政策課長：アンケート回答時の設問の感じ方にもよりますが、レジ袋をごみ出し袋以外に使って、その後に捨てた場合も、「有効利用している」と回答していると考えられます。

野亦委員：そうすると、「ごみとして排出」の中には、有効利用されたレジ袋も含まれているということですね。

議会に出された資料なので、公正に、正確に伝えていかなくてははいけないと思います。

環境部長：「すべてのレジ袋を有効利用している」と回答した人が63%となっていますが、実際は、「ほとんどのレジ袋を有効利用している」人のほうが多いのではないかと思います。例えば、一週間に何十枚もレジ袋をもらう人が、すべてのレジ袋を有効利用するのは難しい。実態とアンケート結果との齟齬もあると思います。

長田委員：友人とこのアンケート結果について話をしましたが、私や友人が回答しても、「すべて有効利用している」、「ほとんど有効利用している」と答えると思います。

実際は、ごみ出し袋以外に利用することも多いので、このアンケート結果の表現には問題があると思います。

環境部長：委員が言われるように、ごみ出し袋以外にもいろいろな有効利用の方法があると思います。

一方で、下のグラフ（ごみに含まれるレジ袋の枚数）は、最終的に排出

されたものを見たときに、ごみとして排出された枚数をカウントした結果ですので、2つのグラフは若干土俵が違うのかなと思います。

豊橋市はこれまで、「レジ袋をごみ袋として認めましょう」というスタンスできました。家庭ごみの組成分析では、ごみ袋として利用されているのか、それ以外なのか、という集計をしています。

野亦委員：スーパーでもらったレジ袋をそのままごみ袋として活用できるのはすばらしいと思います。ただ、レジ袋を減らしましょうと話し合いをする時に、この資料だと誤解を生むので参考にならないと思います。

委員長：ごみに含まれるレジ袋の枚数は、実際にサンプリングして調べた数字です。一方、レジ袋の有効利用についてのグラフは、市民アンケートの結果なので、別々に調査しているとすると、数字の齟齬が出るのはしょうがないと思います。

市の考え方でごみを調べて、結果得た事実を隠す必要はないと思います。

後藤委員：これだけ議論している中でも市の意図が伝わらない状況で、市民に公表しても難しいと思います。

どういうアンケートをしたのか、どういう調査をしたのかという方法を載せないといけません。

植村委員：スーパーでレジ袋をもらい、一回も利用せずに捨てれば「ごみ」、3回、4回と再使用して、最終的に使えなくなったから捨てても「ごみ」です。そのあたりの過程・違いの説明もグラフと一緒に載せないといけないと思います。

河合委員：同じページに違う比較のグラフが並んでいると、見た人は関連付けて見てしまいます。

環境部長：アンケートの回答用紙には、「豊橋市ではレジ袋をごみ出し袋として利

用できます」と注釈がありましたので、ごみ出しを意識した質問になっていますが、回答者にはその意図が伝わっていなかったかもしれません。

副委員長：「すべて有効利用している」、「ほとんど有効利用している」は、アンケートに回答する人それぞれの解釈で異なるので、回答結果についても、大体の解釈でいいと思います。二分する必要はないと思います。

委員長：ごみとして出てきた現実はこのグラフですが、アンケートを取ると、「1回利用して捨ててしまっても有効利用した」という感じの違いがどうしても出てきてしまいます。

それぞれの分析結果は間違いではないと思いますが、アンケート結果との整合性が普通の人ではわからないと思います。

野亦委員：議論の元々が、「スーパーのレジ袋はもらっていても、実際はこれだけしか使われていない。だから有料化しましょう。」という考えが含まれていると思います。

その際に出す数字や説明はしっかりされなければいけないと思います。

委員長：レジ袋有料化は、ごみの排出を少なくして減量しようという話です。

他都市のようにレジ袋を有料化して9割が減ったら、ごみとして出てくる量はものすごく減ると思います。

長田委員：レジ袋が有料化になると、新たにごみ袋を買わなければなりません。レジ袋が既製品のごみ袋に置き換わるわけで、その差し引きはどうなるのでしょうか。

委員長：有料化されると、レジ袋やごみ袋を買わなければいけなくなるので、買わないような意識が働くということです。

マイバッグを持っていけば、レジ袋はもらわなくても、買わなくてもいいものです。有料化すればレジ袋は減りますよという論理です。

副委員長：いろいろな捕らえ方がありますが、レジ袋が無ければ、無いように考えてもらう。意識改革としてのレジ袋有料化だと思います。

豊橋市民は「レジ袋はタダでもらえて当たり前」という意識で今まで来ていますが、当たり前ではなく、必要があれば買わなければいけない。今までが恵まれ過ぎていると思います。

それぞれの家庭で知恵を出し合い、試行錯誤するきっかけになるとも思います。

野亦委員：焼却炉としては、ごみにレジ袋のような石油製品が混ざらない方がいいのでしょうか。

施設課長：プラスチックに含まれる塩化ビニールが焼却炉に悪影響を与えます。

塩化ビニールが多く入ると、焼却温度が必要以上に上がってしまい、耐火レンガの寿命が縮まってしまう。

また、塩化水素は焼却され大気に出ると、酸性雨の原因になります。

業務課長：レジ袋は、1回使って、洗って再び何かに使うということはなかなか無いと思います。

また、家庭ごみ組成分析調査に参加してごみを見ているが、中袋なかぶくろとしての利用状況にも疑問を感じます。レジ袋にできるだけ詰め込んで利用しているのは少数で、多くは1日分のごみしか入れていないのではないのでしょうか。このような使い方であるならば、中袋は必要ないと思います。

確かにごみ袋として利用されていますが、本当の意味での有効利用ではないと思います。このあたりは議論の余地があると思います。

委員長：ここでの問題点として、レジ袋の有効利用の市民アンケート結果と、ごみに含まれるレジ袋の調査結果の表現について、誤解のないように改めてください。

後藤委員：環境経済委員会の資料は、今日初めて見ましたが、事前に教えてもらうことはできないのでしょうか。

環境部長：この資料は、議会の環境経済委員会で勉強するための資料ですが、議員が勉強する前、議会で議論される前に皆さまにお送りすることはできません。

委員長：それぞれのデータは問題ないと思いますが、見方によっては齟齬が生じる可能性があるので、間違えのないようにしてください。

《議 事》

委員長：議題1「事業系廃棄物の減量・資源化の促進」について、事務局から説明していただきます。

(事務局説明：種井補佐)

委員長：ただいまの事務局の説明について、質問はありますか。

後藤委員：議題資料の「委員会の結論（素案）」の表現について、「そのためにも」ではなく、「しかしながら」とした方がいい。

事業系廃棄物について見直しをするという意味合いを出すためには、不法投棄などいろいろな「問題もあるが」、「しかしながら」という文章のつながりにした方がいい。

環境部長：わかりました。

素案の段階ですので、皆さまに意見をいただいて修正をしていきます。

後藤委員：レジ袋有料化のときは周辺自治体の実施状況がポイントになったと思いますが、事業系廃棄物の手数料についても、周辺自治体の状況がどうなっているか資料があるといいと思います。

事務局：今回の議題資料は、提言書をイメージしていますが、資料については別添にすることを考えています。

委員長：文章の整理をしてください。

委員長：次に、議題2「ごみ減量への経済的手法の検討 家庭ごみ有料化」について、事務局から説明していただきます。

(事務局説明：種井補佐)

委員長：ただいまの説明について、質問はありますか。

野亦委員：先ほどの報告にありました、公開ヒアリングでは、家庭ごみ有料化についてどのような意見が出されましたか。

環境政策課長：公開ヒアリングでの委員の意見を紹介します。

- ・ごみの有料化の前にまだやることのあるのではないのか。
- ・ごみ減量は一人ひとりのモラルであるが、そこに有料化のカギをつけることは仕方がない。ただ、その前に検討委員会（豊橋市ごみ減量推進検討委員会）で議論すべきことは多い。
- ・レジ袋有料化は、税金を使わずに市民の意識を誘導するものであり良いと思

う。ただし、家庭ごみ有料化により、ごみを抑制しながら収入を得るのは邪道である。

他都市は有料化により本当にごみが減ったのか。豊橋の住民意識の醸成によりごみを有料化したという方法が望ましい。

- ・収入を得るための家庭ごみ有料化では目的がずれている。

行政用ではなく、市民用にデータを出す必要がある。

530発祥地の豊橋では、有料化しなくてもこれだけのごみ減量ができたとと言えることが本来の理想だ。

副委員長：今の意見の中にもありましたが、530発祥の地であるにも関わらず、ごみが多くリサイクル率が低いのは恥ずかしい、大きな顔ができなくなったと思う。

少し厳しくても、530発祥ということである程度宣伝ができていますので、理解をいただけるようにとをもっていけばいいと思います。

野亦委員：豊橋市は緑が多いので、草を取ったり木を切ったりする。そういう要因もあると思います。

また、市民1人1日当たりの家庭ごみの量を計算する際には、外国人の人口を含めていないという問題もあります。

環境部長：愛知県の平均よりも豊橋市のごみ量は多くなっています。また、外国人を含めて計算した量と比較しても、豊橋市は多い状況です。

緑の多さや外国人の人口が大きな影響を及ぼしているとは思えません。

豊橋市が530発祥の地でありながら、愛知県の平均よりもはるかに多いという状況です。

まずは、レジ袋の有料化で今後のごみ減量への意識付けをしてもらいたいと思います。

愛知県内では家庭ごみ有料化を実施しているのは30%程度ですが、全

国レベルでは60%を超えています。愛知県では家庭ごみ有料化の議論が進んでこなかったという環境があることも確かです。

河合委員：「なぜごみを減らさなければいけないのか」という問に答えることが、まず重要なことだと思います。

ごみを少ししか出さない人は、既に減量意識があると思います。ごみをたくさん出す人には、「ごみは出せば持っていつてもらえる、多くても少なくても構わない。」という意識があるのではないのでしょうか。

一般の方には、そういった感覚がまだまだあると思います。そのためにも、「なぜ？」という疑問と答えをもっと市民に伝えないと、危機感や減量意識を持ってもらえない。家庭ごみ有料化にも納得いかないままになってしまいます。

環境部長：ごみが多い一つの原因にリサイクル率が低いことが挙げられます。

豊橋市の場合、新聞紙など古紙は拠点収集や地域資源回収が主で、ステーション収集はやってきませんでした。ごみとして出されているケースも多いと思われます。

今後、ステーション収集も実施していく中で、「資源として使えるものを再利用しましょう」と意識付けをしていきます。

いきなりごみの有料化ではなく、その前にいろいろな手法があります。

例えば地域資源回収をしていただければ、行政が手を煩わせず上手にリサイクルができて、地元にお金が落ちる。それが一番いい方法です。

ただ、地域資源回収は校区によって意識の温度差がものすごくあります。年に100回以上実施している校区が3校区ある一方で、年4回以下が13校区あります。

地域資源回収をやっていただければ、地域にお金が落ちて、地域の活動にも使っていただけますというアピールもしながらリサイクル率を上げていき、ごみの減量を進めていきたいと思っています。

家庭ごみ有料化は、最終的な手段として考えられる一つの手法という位置付けで委員会に諮らせていただいています。

植村委員：市のアピールは下手だと思います。市民に全く伝わっていない。

もう少し一般家庭向けに、もっと言えば小学校などの教育の現場から、子供たちに「ごみじゃないよ、資源だよ」という話からしていかないといけない。

豊橋はそういった面ですごく下手だと思います。なので、小学校の職員室の中でも校長先生と下の先生とで意見がいつも違っている。どうして一つのものに対して意見が統一できないのかとなってしまう。

今回の広報特集記事のようなものを、どんどんやっていかないとはいけません。学校向けにも企業向けにも、もっとPRをしていかないとはいけません。こういったものにはお金を使ってもいいと思います。

この何年間、意識が少しも変わっていない感じがします。

環境部長：地域資源回収については、今までは実施したところにお金が落ちないという状況もありました。例えば、子ども会がやったとしても自治会の収入になってしまう。また、定額補助についても従量制に見直して、やった人のところにお金が落ち、活動資金に回していただけることを考えています。

植村委員：活動資金もそうだが、意識というものを中心に考えないとはいけません。

530もそうですが、意識付けをしないとごみは減っていきません。

環境部長：530発祥の地、新型の溶融炉を導入したまちという、環境については割りと進んだイメージがあるのかもしれませんが。

植村委員：小学校に置いたアルミ缶専用のビンカンボックスも、なかなか一杯になりません。まだまだ意識が足りないと思います。

長崎委員：業者の立場からすると、ごみ処理には大変なコストがかかると認識しています。仮に業者が焼却炉を持ってごみを処理しようとする、質が悪いごみについては、処理料金を上げざるを得ない。

今の経済の中でごみ処理のコストを下げるには、それぞれの排出事業者が自らごみを分別してリサイクル率を高めなければなりません。

資源化センターに入るレジ袋などのプラスチックごみの量は本当に多いです。ただ、処理料金が絡んでいるため、事業系ごみは家庭ごみと比べると、水切りはしっかりされています。

有料になると、水を切ったりごみの量を減らしたりといった努力がされるようになります。

たくさんごみを出す市民と少ししか出さない市民との差別化は図るべきだと思います。レジ袋についても、有料化してエコバックを持ち歩くようにしないと、ごみは減らないと思います。

委員長：豊橋市は住民への説明が下手だという意見が出ましたが、私はいろいろな場所で廃棄物の委員会をやっていますが、豊橋市は必ずしもやっていない訳ではないと思います。もっとやっていないところもあります。

ごみの問題は、普通の人にはわかりにくいのは事実です。問題がわからないと、どうしたらいいのかもわからない。そういった点では、十分な説明をしないとイケません。

市民として決められたルールをきちんと守っていく、それさえ守れば、それ以上の無理なことを市が言うならば、反対するべきだと思います。

530もやっている、ビンカンボックスという先進的な取り組みもしている豊橋市のごみが多い理由がわかりません。

レジ袋有料化に取り組んで、そのほかの取り組みも行う。それでもごみが減らないのであれば、経済的手法を採らざるを得ないと思います。

経済的手法というと、努力した人が報われないというニュアンスをもたれるかもしれませんが、経済的手法というのは、ごみを減らせば経済的

に得をするというものです。

では、ごみを減らす方法として何が良いのか。単に口でPRするだけで減らせるのか。

後藤委員：テクニカルに見ると、家庭ごみ有料化は有効だと思いますが、市民と行政と事業者とのコミュニケーションがしっかりと取れることが大事だと思います。

野亦委員：有料化すればごみが減るのはわかりますが、530運動発祥の地で意識を改革してきたことを考えると、家庭ごみ有料化はすごく短絡的かなと思います。公園のごみや道路のごみまで有料化になるのは、世知辛くなるような気がします。

家庭ごみが有料になると、市のサービスが低下する、市の財政が潤う代わりに我々の生活が困るじゃないかと思われまます。

ここはまだ踏ん張りどころ、どうやって意識を変えるのか考えるべきではないでしょうか。

最終手段で有料にすればごみが減る、これは当然のことです。

委員 長：何か具体的な手段がありますか。

野亦委員：どうすればいいか、それを考えないといけません。

委員 長：いままでに何十年と考えてきて、それでもごみは減っていません。これは容易なことではないと思います。

廃棄物対策課長：平成11年に、5分別を6分別に切り替えましたが、その時に、最終処分場は平成18年度で終わってしまうことを説明し、最終処分場に頼らない循環型社会を目指していきましようとして訴えました。

また、その翌年には「大きなごみ」の問題も発生しました。(大きなごみの収集方法を、ステーション収集から自己搬入、戸別有料収集に変更)

このときには、ごみステーションに冷蔵庫が10台、20台と置かれる、テレビが山のように出てくるという事態になりました。

当時は、周辺自治体はすべて有料収集で、豊橋市だけが自由に排出できる状態でした。

戸別有料収集に切り替えた際は、受益者負担や公平性という言葉も出されました。

野亦委員：その冷蔵庫は、他市から持ち込まれたのですか。

廃棄物対策課長：そう推測されます。豊橋市内のごみステーションに持ち込めば、タダでごみを処分できると考えられていたからです。

豊橋市自身もごみを税金で処理しているので、自己防衛をしていかないといけません。最終処分場に負荷をかけないように、市民の皆さんに物を大切にすることを考えていただきたいということから、「大きなごみ」の有料化に踏み切った経過があります。

副委員長：朝倉川の530大会を行っていますが、当初のごみの量は50トン、今は3トンほどになりました。

前日の見回り時にはごみはありませんが、当日になるとテレビ、冷蔵庫、オートバイ、自転車が捨ててあります。

「530があるから持って行ってくれる」という不道德な人がどこにもいます。100%は求められないと思います。

今、家電4品目の処分は有料ですので、530大会で出た家電は朝倉川の負担で処理しなければなりません。

処分費用をどこから捻出しなければならないか、納得いきませんが払っています。

530に携わっているといい勉強になります。そういう人もいるけど、自分は絶対にしないという気になります。

委員長：この委員会に出ているような意識の高い人は別ですが、普通の人に高い意識を期待することは難しいと思います。何らかの規制をかけないと、ごみが減ることを期待するのは難しいと思います。

河合委員：広報はみんな見るので、今回の特集記事は非常に良いと思います。2、3ヶ月に1回くらいで載せるといいです。

業務課長：ごみの有料化によって、生ごみがどこかに捨てられるという事態も考えられると思います。また、有料化後も引き続きレジ袋で出す人もいると思います。
ごみ減量と有料化と不法投棄は、全く離れた問題ではないと思います。

後藤委員：市としては家庭ごみ有料化を進めたいのだと思いますが、この委員会としては、ちょっと待て、もう少し検討しなさいという立場だと思います。資料の文章表現（委員会の結論）ですが、いろいろな施策を講じた上で検討・実施することが適切とありますが、「検討し実施することが適切であると考えます。しかしながら、様々な施策を実施し、市民の理解を得ることが必要です。」という形が好ましいです。「市民の理解を得る」という言葉を文章の最後にして強調するほうがいいです。

委員長：ごみを減らすために、具体的な施策は他にあるでしょうか。
手軽にでき、誰でも取り組めるような簡単なものがあればいいのですが。

野亦委員：ごみを有料化するという前提ではなく、これから何らかの形で努力し、最終的には有料化の可能性もあるという形で話をしていくのがいいのではないのでしょうか。

委員長：他に具体的な方法があるでしょうか。あるならば、有料化は必要ありません。

野亦委員：一般の人に何か良い方法がないか聞くのはどうでしょうか。

委員長：普通の人意識で、「何かありますか？」と聞いても難しいのではないのでしょうか。

野亦委員：先日の公開ヒアリングで意見をもらったように、自治会などに意見を聞くという方法もあります。こういった場に参加してもらい理解していけば、また違うと思います。

委員長：ごみの問題について、一般の人はそれほど関心を持っていない。ただ捨てるという意識ではないのでしょうか。

もし、意識が高いのであれば、全国でも多いごみの排出量にならないと思います。こういった矛盾を抱えているんです。

これに対して、どのような有効な方法があるのか、それを問われていると思います。

野亦委員：委員会だけで方法を出すのではなく、自治会などにも投げかけてみてはどうかと思います。

河合委員：その場合、投げかけの形はどうするの？という問題があります。市民にわかりやすいような方法がこの委員会でないのか、そういう問いかけだと思います。

後藤委員：有料化は、市民の理解を求めた上での手段だと思います。

委員長：市民の了解を得る意味が、賛成50%以上にならないと実施できないというものであるならば、それは無意味だと思います。

後藤委員：市民を説得するという意味です。

委員長：有料化する際は、市民に向けてPRをする。市として最大の努力をするはずです。

環境政策課長：今までの状況として、市民に対してPRしてこなかったということ

が一つの反省点です。

先日のヒアリングでも、「豊橋のごみの現状をもっと知りたい」、「なぜ多いのか、何ができるのか」という意見をもらっています。

これらを踏まえて、市民のみなさまに現状を把握していただき、ごみ減量にはいろいろな手段があり、最終手段としてごみの有料化もあるということ、今後PRしていきたいと思います。

環境部長：市民意識調査の結果を見ると、家庭ごみ有料化に反対が54%となっている一方で、いたしかたないと思われる方も含め35%の方が賛成に手を挙げています。この数字は大きいと思います。

このパーセンテージを少しでも上げるよう、行政として努力をしていかないといけません。

ただ、委員長が言われたように、50%以上の方が賛成と言わなければ有料化はできないというのは、違うと思います。反対の意見があつたとしても、行政としてやらなければならないことはあります。

植村委員：確かにパーセンテージを上げる努力はしなければなりません。

副委員長：今回の広報のような取り組みはすばらしいと思います。第2弾、第3弾と積み重ねて、有料化にご理解いただくしかないと思います。

市民アンケートの“反対”には、単純意識でマルをつける人も多いと思います。無料の方がいいという意識は当然あります。

逆に、35%の賛成があるのはすばらしいと思います。

植村委員：生ごみが一番多いようですが、何が多くてどう減らさなければならないか、伝える必要があります。

委員長：一番良い生ごみのリサイクル方法としてメタンガスへのリサイクルがありますが、10年、20年のトータルで考えると、この方法だと得になります。長岡市では分別して出た1日65トンの生ごみをメタン発酵さ

せ、電力として売却する計画をしています。

設備投資を含めても、経済的に得をする計算結果になっています。

ただ、主婦の方に意見を聞くと、生ごみの分別には圧倒的に反対という状況です。

環境部長：生ごみや下水道汚泥のリサイクルは豊橋市でも検討していますが、今の状態で生ごみの分別ができるかというところ、豊橋市はそこまでの市民意識にはっていないと思います。

現在、重量ベースで「もやすごみ」の40%が生ごみになっています。

これがバイオマスで処理できれば、新たに必要となる焼却炉の規模は小さくすることができ、建設費・維持管理費も安くすることができます。

しかし、今の段階ですぐにできるかというところ、それは難しいです。

野亦委員：生ごみ処理機の購入補助はどのような状況ですか。

環境部長：お金をかけずに堆肥化しようということで、去年はダンボールを使ったコンポストを、今年はランドリーバスケットを使ったコンポストの紹介をしています。講習会を開催していますが好評です。

委員長：コンポストによる生ごみ処理は、炭酸ガス排出の点から見るとマイナスになってしまいます。メタン化の場合はエネルギーとして回収できますが、コンポスト化の場合は二酸化炭素にして逃がしてしまいます。

ごみの減量という意味で実践するのはいいと思います。

委員長：有料化をする前にやらなければならない施策はたくさんありますので、市として取り組んでください。

そのほかにありますか。

後藤委員：「将来世代のために」という文言をまとめの文章の中に盛り込んでください。今から取り組んでいけば、将来世代に残していけるという持続可

能な社会という意識が大切です。

河合委員：一般市民に、どうしてごみを減らさなくてはならないのか、こんなことで困っている、こんなにお金がかかる、ということをおぼつけていかないといけません。

廃棄物対策課長：昔はごみは自分の家で処理をしていましたが、都市化が進み、ごみを収集するようになりました。しかし、収集されたごみは埋め立てられており、このままでは埋める場所がなくなってしまう。これに対処するために、ごみを燃やすという方法が採られるようになりました。家庭から出たごみが、中間処理を経て最終処分される構図はこれからも変わらないと思いますが、何十年、何百年した時には、最終処分場がいっぱいになってしまいます。将来のために、ごみを減らさなければならないと思います。

委員 長：この場では専門的な知識やレベルで議論をしますが、一般の人は、ごみについてほとんど理解されていないのではないのでしょうか。

「袋に入れて出せば処分してくれる」という意識しかないとすれば、「お金を出しなさい」と言われても、納得できないと思います。

家庭ごみ有料化は、ごみを減らす手段として有効ですが、市民によくわかってもらえるよう、市は最大の努力をしなければなりません。

豊橋市のごみを減らす手段として、家庭ごみの有料化をせざるを得ない、そのために、なぜ減らさなければならないのかということ、市の最大限の努力で市民にわかってもらうことが大切です。

長田委員：委員会として今回の素案を出すと、実際に有料化されるのでしょうか。

委員 長：議会で否決されればできません。

野亦委員：委員会として有料化を提案することになりますね。

「最終的にごみの状況が改善されなければ、有料化せざるを得ない。」という形はなく、「有料化する状況にならないよう、努力していく」ほうがいいと思います。

環境政策課長：この検討委員会では5つの手段を検討していただき、まとまったものから順次方向性を出していく作業をしてきました。

家庭ごみ有料化について、この委員会は、様々な階層の方から生の声をお伺いし、意見を集約する場であると考えています。

委員会で一定の結論、提言を出していただき、その提言を次回とその次の回で議論していただきます。

委員長：ごみ減量手法として5つの方法が議題としてこの委員会に与えられ、それぞれについて、委員会としてどう考えるかを結論付けなければなりません。

後藤委員：話の流れだと、家庭ごみ有料化は、市民の理解を求めた上での条件付賛成になると思います。

長田委員：レジ袋有料化や資源ごみのステーション収集を進めていき、その成果を見た上で家庭ごみ有料化を判断するという、間を取った表現がいいと思います。

委員長：委員会として(家庭ごみ有料化を個別に)結論を出すのは今回が最後で、今日がYesかNoかだと思いましたが、皆さんは家庭ごみ有料化がお嫌いですか？

「お金を払うのが嫌だからごみを減らす」という効果はあると思います。

長田委員：いろいろな施策をやって効果を見て、それでも減らないようなら家庭ごみ有料化もあり得る、というやり方がいいと思います。

環境政策課長：次の議題の内容ですが、これから作っていく提言書の構成の中で、

「豊橋市に求めること」という項目があります。

この中に付帯意見、重要な意見として提言書に付け加えることができます。

委員長：それでは、議題3の説明をお願いします。

(事務局説明：種井補佐)

委員長：提言書の構成や作成の流れについて、質問はありますか。

植村委員：今日の会議で結論を決めることは難しいと思うので、あと2回の中で考えを整理していくのがいいと思います。

副委員長：委員会では、一通り意見も出尽くして、新しい案やアイデアも出ていないので、次回に新しい案を出すのは難しいと思います。

結論を急ぐことは不本意ですが、最終的には有料化に持って行くしかないのかなと思います。

「自分のごみは自分で持ちかえりましょう」という530の発祥地なので、自分のごみは自分でお金を出して処理してもらおうという意識改革が必要です。

本当に理解してくれる人は、38万市民のほんの一角かもしれません。

しかし、広報でわかりやすく、何度も段階的に説明することによって、意識付けをしていくしかありません。

「大きなごみ」が有料化された時もそうでしたが、無料で回収されていたときは何も感じませんでした。有料になった時はビクツとしたと思います。有料化することで、ごみは自分にも関係があるのだと認識を持ってもらえると思います。

この場で、有料化に賛成か反対か、手を挙げることは苦しいことではあ

りますが、答えは賛成とせざるを得ないと思います。

後藤委員：大きな流れとして、市が困っている状況から有料化もやむなしだとは思いますが、提言書の文章の書き方を工夫して、皆さんが納得できるような形をとってもらいたいです。

家庭ごみ有料化は最終手段なので、いろいろなことをやった上で、それでも市が困っているから有料化をします。という流れがいいと思います。

野亦委員：最終手段としてこういうことも考えなければならない、という提言書の内容になると思いますが、様々な場で市が抱える課題を出し、いろいろな人に意見を聞くことが大切です。

長崎委員：有料化ありきではいけませんが、ごみの現状を広報などで積極的に出していくことが必要です。そうすることで、ごみ減量に向けた各自の努力を促すことができます。

長田委員：提言書の内容は、市民の理解が得やすいものにした方がいいです。

河合委員：最終的な手段としては有料化だと思いますが、やはりその前に市民の理解と協力が欠かせません。

そのために、「なぜごみを減らさなければならないの？」ということをもっと市民に説明してほしいです。

こういった話を各地域でもらうと、大変ありがたいです。

植村委員：市民が「そうだよね」と納得できるような形で、市が施策を決めていくのが本筋だと思います。

「なんだ、市が勝手に決めているじゃないか」とならないような、我々委員会であればなりません。

そのためにも、もっとアピールをして、わかってもらった上で進めないといけない。みんなで良くしていくという形をとらないと、長続きしな

いと思います。

委員長：委員の皆さんの意見を反映した形で、次回に素案を出してもらいます。

本日の議題は、これで終了とさせていただきます。

○ その他

次回の委員会は11月26日(月)午後2時開催に決定